3H-5

教育実習事前指導 Web システムの提案

松本亜紀† 田中雅章†
鈴鹿国際大学短期大学部†

【発表概要】
近年，四年制大学ばかりでなく短期大学においても教員免許の取得を希望する学生は多い．ところが，四年制大学に比べ短期大学の学習期間は２年間と短いため，学生は入学してから１年あまりで教育実習に行かざるを得ないことが多い．
本来，教員養成課程は教育方法の知識や指導技術を学び，問題が増え続ける教育現場に即応できる知識と活動能力が重視される傾向にある．しかし，短期大学では入学から教育実習の実施まで１年という短期間である．にもかかわらず，専門教科や技術の習得が優先され，現場に立つ教師として身につけたい本質部分がおろそかにされてしまうことがあり得る．あらかじめ充分な事前指導やトレーニングがなされないまま教育実習へ行かざるを得ないのが現状である．
本研究では教員養成における学習活動を本質化させ，さらに養成課程の学生に人を教育するという教育本来の目的を自覚させ，教員を目指す者として主体性持ちさらなる取り組み姿勢の意識向上をさせる教員養成法について提案する．また，それを実現するための方法として，Web を用いて課題の設定・解決能力や指導能力の育成について検討および試行した．さらにこの方法に基づいて実践内容を報告し，その実装化を提案する．

１．教育実習事前指導

４年制大学において３年次からの教育実習を効果的に実施するために，１年次から２年次を通して教育実習が始まるまで実習準備を行っている大学がある．それは数回の授業参観や児童生徒を遠足あるいは社会見学に引率するなど児童とのふれあいを重視したものである．しかし，教育実習までの準備期間が少ない短期大学の１年次生にとって，教育実習が始まるまでに類似した体験の場を設けることが必要であるにもかかわらず，それを実施することは困難なことである．せめて，教育実習の擬似的体験を経験させることによって，実習に対するイメージをより現実に近づけさせたい．さらに教育に対する心構えがよりしっかりしたものとなれば，限られた実習事前指導であっても，学生にはより効果的であると考えられる．

そこで，著者らは大学の教室で短時間ではあるものの本番形式の模擬授業を行うことで，より効果的に学生が教育実習への取り組むように促す試みを行っている．さらに，学生が行う模擬授業を学生同士がお互いに授業内容を評価することは，生徒役の学生もまた模擬授業の間接体験を積むことになると考える．

評価をする側になる生徒役の学生は模擬授業を評価するためにこれまで漫然と聴講していた姿勢から，授業をじっくりと聴講するように変わる．また，評価される側である先生役の学生はただ単に課題をこなす意識から，生徒がより理解しやすいようにと模擬授業を組み立てようと努力する傾向が見られた．

この活動により期待される効果は，学習者自身のスキルに不足がある点を自らが発見できる機会を与えるばかりでない．学習者同士が互学互習へと展開することにも注目したい．しかもそれらの活動を通して，自らのスキル不足点をより明らかにし，自らがそれを認識することである．さらに，学生同士の評価が相互作用となり，さらなる指導技術の向上が望めることである．

以上のことを実現するために教職課程の学生は協調的な学習を実現した教育実習事前指導が必要である．つまり，これらのことは学生を教育実習現場へ送り出すために重要な事前指導として位置づけたい．

２．システムの概要

学生に実習時の生徒向け指導教材を作成させること．また．作成した指導教材を学生に模擬指導させ，学生同士がお互いに客観的な評価を行うトレーニング実践を行っている．

これらの一連の作業をより効果的に実現するためには，学生が作成した指導教材の蓄積と模擬指導の評価情報を整理した提供が必要と考える．

そこで，本教育実習事前指導システムでは学生が制作した指導作品の収録情報と模擬指導の評価情報の二点を重視したい．

Proposal of educational practicing prior guidance Web system
†Aki. Matsumoto Masaaki. Tanaka
Suzuka Junior Collage

学生が制作した指導作品の収録情報として，生徒向け指導教材の画像，指導案作成の参考につながる指導テーマ，指導対象学年，指導の目的，理解させたい事柄や工夫点などがある．模擬指導の評価情報として，評価得点と評価された良い点や悪い点の自由記述などである．

指導作品の収録情報は，教職課程の学習者である学生が作品を制作するための参考資料となるデータベースの役割をもつ．模擬指導の評価情報は，模擬指導者あるいは評価者にとって実習結果の振り返りや次回に作成する指導教材のよい参考資料になると考えられる．また，指導教員にとってみれば学習活動の記録や蓄積が分かりやすく整理されていることが重要である．

また，学生の教育実習事前指導の学習活動がそのまま自動的にデータ収録になる工夫が必要である．つまり，余分な登録作業は学習者である学生の負担になるばかりでなく，精度の良いデータ収録が期待できず手直しや再収録を強いられてしまうことも予想されるからである．

さらに Web システムに実装化することで，固有のソフトウェアに依存することなくより柔軟性の高いシステムの運用が可能となる．

３．システムのインターフェイス

本教育実習事前指導システムを利用する学習者にとってどのようなユーザインターフェイスが使いやすいのかの検討を試みた．対象とする利用者それぞれに応じた配慮が必要であり，どのような要求があるのか，調査票に記入する方法でアンケートを行った．調査対象は始めて事前指導を受ける学生と，評価活動を行った学生の両者である．

始めて指導教材を作る学生にとって参考となる作品の情報をどの程度まで知りたいのか，そのニーズを調査した．それぞれ，内容の異なるプロトタイプを作成し，どの程度の作品解説画面が良いか順位をつける方法をとった．

これらのアンケートの分析結果に基づき試作したものが次に述べる画面構成である．

図.1　見やすさを配慮した縮小表示の一覧は，大きめのサムネイルの画像一覧があれば，ファイルを開くことなく参考にしたい画像を選択することが可能である．しかし，かなりの学生は，詳細画面を見ているようである．

次に画像の一つをクリックすると図.2　作成者の説明を付けた指導教材に切り替わる．この画面では指導教材の対象，目的，理解点，工夫点が明示してある．これはそのまま指導案の参考や基となるように配慮した．

図.1　見やすさを配慮した縮小表示の一覧

図.2　作成者の説明を付けた指導教材

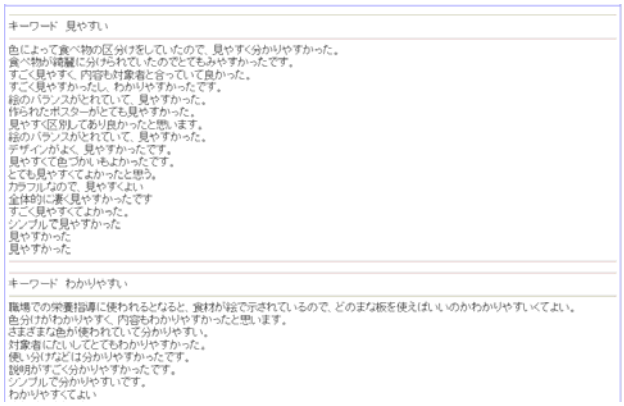

図.3　キーワードで分類した評価

図.3　キーワードで分類した評価には，評価を抽出したキーワードによってグループ化を行っている．できるだけ同じような表現を集めることによって自由記述された評価を効率よく読むことが可能となる．

４．まとめ

教育実習事前指導システムの目的は，短い期間でも模擬授業が行える実力を養い，教員となるための自信を持たせるたるためのものである．

Web を利用した実装化は学習者に好評であり，教育実習に必要な能力が少しでも養われたものと期待している．

今後はさらに内容を検討して，安心して教育実習に送り出せるような学習システムを構築したいと考えている．